

天神地区における子連れ家族の移動特性に関する研究

福岡大学工学部 学生会員 ○ 伊藤 航平
福岡大学工学部 正会員 吉城 秀治

福岡大学工学部 正会員 辰巳 浩
福岡大学工学部 正会員 堤 香代子

1. はじめに

誰もが楽しく快適に回遊できる中心市街地の創出は、都心の活性化に向けて重要な検討事項である。そこで、少子化対策が喫緊の課題となっている我が国においては、子連れであっても回遊しやすい中心市街地を整備していく必要があるとの問題意識のもと、都心を訪れた一般来街者と子連れ来街者の回遊行動の違い¹⁾や、子供の様子と回遊特性の関係から子供が楽しく都心を回遊できるための課題が検討されてきた²⁾。一方で、これら研究では回遊時における子連れ来街者の移動特性や移動上の課題は明らかにできていない。楽しく快適な回遊環境を担保する上でも中心市街地における移動環境は重要な検討事項であり、子連れに配慮した移動環境を整備していくためには子連れの移動特性や移動時における課題を明らかにしていく必要がある。そこで本研究では、福岡市天神地区の来街者を対象としてアンケート調査を行い、子連れ来街者の移動特性を明らかにすることを目的とする。

2. 調査概要と回答者について

天神地区の来街者に対してアンケート調査票を配布し、郵送回収した。配布部数は計4,000部、回収部数は692部となっており、回収率は17.3%であった。調査概要を表1に示す。回答者の個人属性は、男性21.7%、女性75.1%で、年齢は20歳代以下8.3%、30歳代17.5%、40歳代25.7%、50歳代23.4%、60歳代15.6%、70歳代以上9.2%であった。また、本研究での子連れ来街者とは調査日に小学生以下の子供を連れて回遊していた回答者とし、137サンプルであった。その子連れの回遊時の移動手段は図1に示すとおりであり、小学生連れとなるとすべての子供の移動手段は徒歩となっているが、乳幼児連れはベビーカーを利用している人が36.4%、おんぶ・抱っこで移動している人が25.0%となっており、連れてくる子供の年齢に応じた移動時の課題やニーズがあるものと考えられる。

表1 調査概要と調査項目

配布日	平成28年10月8日(土)、9日(日)、10日(月祝)
配布・回収方法	無作為配布、後日郵送回収
配布場所	福岡市天神地区(イムズ地上、イムズ地下、ライオン広場、きらめき通り地下)
配布部数	各地点1,000部、合計4,000部
回収部数、回収率	692部、17.3%
調査項目	個人属性 性別、年齢、子供の有無、来街頻度等 回遊について 同行者の属性と人数、回遊行動とその目的、消費金額、満足度、子供の様子、移動経路等

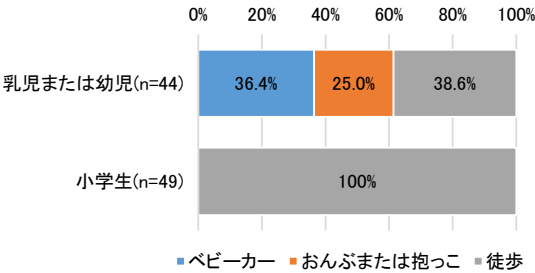


図1 回遊の際の子供の移動手段

3. 子連れ来街者の回遊時の移動特性

3-1 子供を連れての回遊時に不安に感じること

まず、子供を連れて回遊する際の課題を抽出するため、子供を持つ回答者に対して天神地区を回遊する際に不安に感じることを尋ねた(図2)。その結果、最も指摘があったのは「人の多さ」であり、次いで「子供が人とぶつかりそうになる」、「自転車に対する不安」となっているなど、移動時に関わる不安が多くあげられていることがわかる。

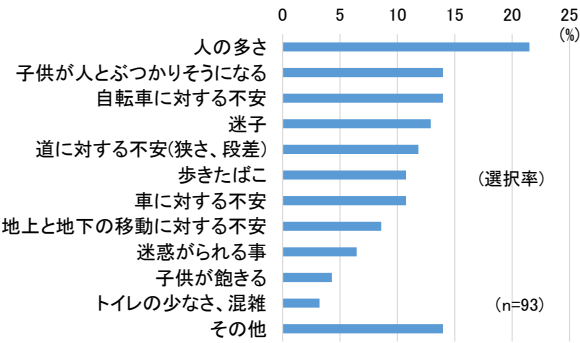


図2 子供を連れて来街する際の不安に感じること

3-2 子連れ来街者と一般来街者の地上地下の選好意識

子連れ来街者は、前節で示されたように子供を連れてくることに起因する不安意識を抱えており、その結果、一般来街者とは異なった経路選択特性を有している可能性がある。以下では一般来街者との比較からその特性を明らかにしていく。天神地区移動時に地上と地下のどちらを好んで移動するか尋ねた結果を表2に示す。子連れ来街者と一般来街者は共に地下を好む人の割合が高くなっており、統計的にもその差はみられない(独立性の検定:p=0.182)。しかし、地上もしくは地下を好む理由を尋ねた結果では子連れ来街者と一般来街者で異なる部分が見られており(図3、4)、地上を好む理由では子連れ来街者は「地上と地下の移動が面倒だから」との回答割合が高くなっていった。地下を好む理由については、一般来街者と子連れ来街者はともに天候の影響や信号がないことが多くあげられており、

子連れと一般来街者で差がみられたものとしては、「自転車や車等の通行がないから」について子連れの回答割合が高くなっていた。

表 2 地上を好む人と地下を好む人の割合

	地上を好む(%)	地下を好む(%)
子連れ来街者(n=136)	34.6	65.4
一般来街者(n=547)	28.7	71.3

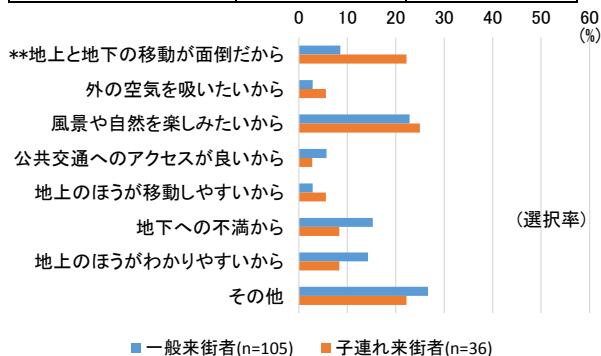


図 3 子連れ来街者と一般来街者の地上を好む理由

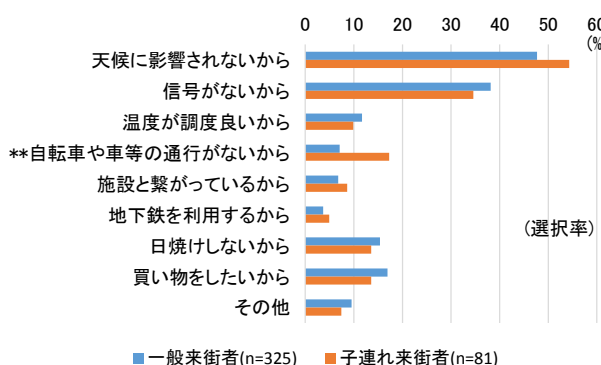


図 4 子連れ来街者と一般来街者の地下を好む理由

3-3 子連れ来街者と一般来街者の地上の移動経路

続いて本節では、実際にどの程度子連れ来街者と一般来街者で移動経路が異なっているのかを明らかにする。ここで移動経路については、新たな場所を訪れる都度、その場所までの移動経路を地図上に直接記入してもらう方法を採用している。その結果、一般来街者については、1,047 回分の、子連れ来街者については 280 回分の移動経路の情報が得られている。そして、天神地区内の各リンクに対して番号を割り当て、各リンクが総移動回数のうち何回移動経路として通行されていたのかを求めた(例えば、43 回通行があった図 5 に示すリンク番号 6(地上)の子連れ来街者の通行率は、 $43/280 \times 100\% = 15.4\%$ として求めている)。子連れ来街者と一般来街者の地上および地下の経路の通行率を図 5 に示す。天神地区の中でも主要な道路である渡辺通り(天神地下街)ときらめき通り(きらめき地下通路)に着目すると、両通りの地上の通行率は子連れ来街者のほうが高い傾向にあり、地下の通行率は一般来街者のほうが高い傾向にあることが示されている。前節より地上よりも地下のほうが子連れ来街者と一般来街者ともに好まれる傾向にあったが、これら通りについては地上の歩道が広く整備されてい

る路線であること、地下のほうが地上よりも歩行者交通が多いことが、子連れと一般来街者で選択に差が生じた理由として考えられる(福岡市の交通量調査³⁾によると、地上の西鉄福岡天神駅前の歩行者交通量(7 時~20 時)は 15,157 人であるのに対し、同地下部分の西 6 番街前は 34,901 人となっている)。これらは、子連れ来街者は一般来街者と経路選択時においてその決定要因が異なっており、回遊時における移動特性が異なってくることを示した結果であるといえる。



図5 子連れ来街者と一般来街者の移動経路の通行率

4. まとめ

本研究では子連れ来街者と一般来街者の回遊時における移動特性の違いについて明らかにしてきた。地上と地下の移動に関する選好意識について尋ねたところ、子連れ来街者と一般来街者ともに地下を好むとの回答結果となっていた。しかし、その選好理由は両者で異なっており、自転車や車等の通行がないからといった安全性に関する意見で両者に差がみられている。また、実際の移動経路を尋ねた結果では子連れ来街者と一般来街者で差がみられ、地下を選択する一般来街者が多い道路であっても、反対に子連れは地上を選択するほうが割合が高くなっている道路もみられた。子連れにとって移動しやすい経路は必ずしも一般来街者と一致しておらず、今後は子連れの経路選択行動について詳細に分析していく必要がある。

参考文献

- 1) 辰巳ら: 都心での回遊行動の比較による子連れ来街者の特性把握～福岡市天神地区を対象として～, 土木学会論文集D3, Vol.72-5, p.1435-1445, 2016.
- 2) 辰巳ら: 都心部での子連れ家族の回遊行動と子どもの様子との関係に関する研究～福岡市天神地区を対象として～, 土木計画学研究・講演集, Vol.54, 2016.
- 3) 福岡市: 都心部歩行者交通量等調査結果について(平成23年度)